

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 5

2005年7月発行

障害児地域生活支援

1. 学生ボランティア交流会

2005年5月21日(土) 13:30~16:30

大阪市立城北市民学習センター 研修室1

参加者 19名 (大学15名、短大1名、専門学校1名、高校2名)

地域生活サポートネットほうぷでは、学生ボランティアが、障害児地域生活支援の活動・イベントの企画や運営、講座中の保育など、さまざまな活動に関わっていく予定です。今回は、障害をもつ子ども達の地域支援を行っていくために、学生さんたちを中心とした交流会を開催しました。千里金蘭大学の学生さんの企画・進行によるゲームなどで交流をし、その後、グループに分かれて障害をもつ子ども達が楽しめる夏休みのレクリエーションイベントの企画を行いました。 **夏休みレクリエーションイベントについては、10ページをご覧ください★**

参加者アンケートから・・・

＜今までに障害児と一緒に遊んだり、教室で一緒にすごしたりしたことはありますか？＞

- ・ ありません(4名) ・小学校の時、障害をもつ子のクラスがあったので、交流していた。
- ・ 小学校の時、教室で一緒に過ごしていた。
- ・ 耳の不自由な子と小1～中3まで、同級生としてかかわっていた。
- ・ 高校の時、障害児施設に行き、一緒に公園を散歩したり遊んだりした。
- ・ 中学の時に夏休みの保育ボランティアに参加した。

(「はい」の中でも、子どもの頃の経験だけの人や、現在も関わっている人まで、いろいろ。)

＜「障害児」という言葉から想像されるイメージを自由に記述してください。＞

- ・ 一人でできない事もたくさんあるけど、何か少し手伝う事で、出来る事はたくさんある。
- ・ ボランティアさん達など、たくさんの人にてあうチャンスがある。
- ・ コミュニケーションの取り方がとても重要だけど、難しい。
- ・ 障害を気にせず、がんばっている人もいる。 ・怖い。何か飛びぬけて優れたものがある。

(前述の経験の有無や出会い方によって、意識の違いが見られる。)

<障害児のレクリエーション活動を計画するにあたって、あなたがもっとも大切にしたいことや、こだわりたいことは何ですか。>

- みんなが楽しいと思える遊び。みんなと一緒にできること。
- 障害児の子どもたちが楽しめる事はもちろんだけれど、私自身も楽しみたい。
- 障害を持った子どもに助けてあげるといふ思いで接するのではなく、できない所はみんなと協力して助け合い、できるところは自分自身でもらう。そのような視点を持ってレクリエーションを企画する事が大切だと思う。
- 自己満足ではなく、障害児が本当に楽しいと思ってくれるような遊びを考えたい。

<皆さんが企画した遊びやレクリエーションへの参加を希望する子どもさんについて、あらかじめ把握しておくといふと考えられる情報は？>

- 配慮すべきことなどを教えてもらう。その子どもの「嫌なこと」を知っておく。
- 一人ひとりの持つ障害は違うから、一人ひとりができない遊びにならないために、一人ひとりの持つ障害をあらかじめ頭に入れておく。
- 子どもの「好きなこと」「苦手なこと」を把握しておく。

<今日のプログラムに参加して気づいたことや感じたこと>

- 楽しかった。 • リラックスできるのに時間がかかる。
- レクリエーションを計画することはとても大変なことだと思った。子どもたち中心で物事を考えることは本気で悩んだ。はずかしがり屋な自分のからをやぶる必要があると思った。
- いろんな考えがあって面白いと思った。 • いろんな意見が聞けてよかった。
- 子ども達が楽しむことが最も大事だけれど、私たちもともに楽しむことが大切と思った。

障害をもつ子ども達との関わりの経験はそれぞれ違いますが、いろんな気づきがあって、ここからのスタートを大切にしたいと思います。活動をともに作っていけることを期待しています。

障害をもつ子どもの

2. 保護者交流会

2005年6月4日(土) 13:30~16:00

大阪市立城北市民学習センター 研修室2:交流会、研修室3:託児

参加者 19名 (内訳:父親2名・母親17名)

(子ども:就学前2人・小学校低学年9人・高学年4人、中学3人、高校1人)

ボランティア参加者 27名 (託児、交流会運営に参加)

(社会人1名、大学16名、短大1名、専門学校3名、高校6名)

最初に、お互いにうちとけて話せるようにゲームをしました。「出会いのじゃんけん」では、強いことが良いとされる社会一般の価値観に対し、見方を変えると“弱くてゆっくりの中にステキなことがある”ことへの気づきを、「バースデーチェーン」では、言葉だけに頼らない“思いのキャッチボール”であるコミュニケーションへの気づきをしていただきました。次に、誕生日順(月日)でグループ分けをし、話し合いたいテーマを出し合いました。

<話し合いたいテーマ>

- ① 学校のこと：先生との関係、教員数（少ない）、教師の質、カリキュラムや勉強の取り組みについて、など
- ② 余暇（土日）の過ごし方：十分に遊べていない、家族としか過ごせない状況、家庭教師のこと、など
- ③ 友達のこと：友達との関係、いじめ、など
- ④ 将来のこと：学校選択、中学高校へ向けて、自立に向けて、など
- ⑤ その他：成長期の性の課題、周りの人の見方（価値観）、など。



その後、話し合いたいテーマ別に4～5人のグループに分れて、話し合いをする予定でしたが、参加者はさまざまな思いを抱えているようでしたので、それぞれの子どもの話や具体的な悩みについて話し合うことにしました。「就学前&小学校低学年」グループ、「小学校高学年」グループ、「中学生&高校生」グループと子どもの年齢に分かれてディスカッションをしました。最後に、グループの話し合いの内容について発表し合いました。子どもの年齢ごとに悩みも変わっていくこと、親が子どもとともに成長をしているようすがわかる内容になりました。

就学前・小学校低学年グループ

- ・ 校区の小学校に行くことで、友だちや地域との出会いがある。
- ・ 学校や先生とのコミュニケーションのとり方が、難しいが大切である。
- ・ 区や学校によって、障害児教育の取り組みに違いが感じられる。
- ・ 学校の子どもに対する理解に疑問を感じることもある。
- ・ 子どもに時間割の準備（明日の通学準備）をどうさせるか（技法的なこと）など。
- ・ 登下校の心配。交通面での不安がある。

小学校高学年グループ

- ・ 究極の自立とは何か？親にできることは、サポートできる人を探すこと。
- ・ 誰とでも楽しく過ごせるように、どんな状況でも柔軟に対応できるようになって欲しい。
- ・ 支援費制度で支給が厳しい部分は、ボランティアの利用をしてはどうか。
- ・ 子ども性の目覚めについて。誰がどう教えるか。悩みが大きい。

中学・高校グループ

- ・ 高校進学について。受験枠。学校の協力体制の重要性。地域内にバックアップする体制があるかどうかで大きく違う（地域の格差）。
- ・ 子どもにとって自立とは何か？個別的な手厚い対応がされている養護学校でなく、同年齢の子ども達をすごして生きる力をつけるために、高校に行かせたい。

「就学前&小学校低学年」グループでは、人数が多かったため、十分に話すことができなかつた方々がいたと思います。グループに1人ファシリテーター(進行役)が必要だったと反省しています。次回の交流会からは、この反省を生かして企画をしていきたいと思っています。

「小学校高学年」グループでは、自立に向けて前向きに考え、サービスの利用やボランティアとの関わりも進んでいるようでした。また、子どもの成長とともに、悩みも変化して、第2次成長期に入ることもあり、性についての話に時間を多くとったようです。

「中学&高校」グループは、高校進学のこと話題の中心となり、区内でも取り組みの格差が大きく、今後の取り組みの発展が期待される内容でした。社会で生きていくために、高校くらいまでは「ブチ社会」で育てて欲しいという親たちの熱い思いの交換になりました。

参加者アンケートから・・・

<感想>

- ・ 年齢(子どもの)が上の方の話は、とても参考になり、自立に向けて改めて考えさせられました。
- ・ とても有意義な時間でした、この交流会を(例えばテーマを設けたりしながら)、続けていただきたいと思いました。また、もっともっと多くの保護者の方の参加できる(して下さる)会にしていきたいです。
- ・ いろいろな悩みをみなさん持っておられるのだなあと思いました。時間割の仕方をどうしているのか?先生との関わりの方とか、いろいろ情報交換できてよかったです。
- ・ 進学の話ができたことはすごく良かったです。でも、地域によってのつながり(バックアップ)のある無しでの違いをとて感じました。

<グループでの余暇活動(学生が中心に行うレクリエーション活動支援)について>

- ・ あれもこれもたくさんではなく、のんびりゆっくり、じっくり、近くで取り組めるのがいいのでは。
- ・ 学校や地域外の子どもや学生さんと子どもが接するいい機会だと思う。子どもの反応が楽しみ。

<個別の余暇活動(ボランティアによる個別活動支援)について>

- ・ 親がついていると同級生の子どもと遊んでいるという感じになりにくいようなので、学校のお友達と遊ぶみたいな企画が欲しいです。
- ・ わざわざどこかに行くのではなく、地域で友達の中で遊ぶことをしてもらいたい。

<今後、どのような企画をして欲しいか>

- ・ もう少し絞ったテーマでの勉強会や交流会
- ・ 「お父さん」交流会
- ・ 性教育(親が子どもにどう教えたらいいか)

今回1回だけでは具体的なニーズの収集やサービスの創造に結びつけることはできないことを感じ、交流会を続けていく必要性を感じました。交流会を積み重ねていく中で、親たちのエンパワメント(本来持っている力を引き出していくこと)をはかることができるのではないかと感じています。今後、学校生活、自立に向けてなど、大きなテーマを設定した交流会を開催して、ディスカッションをしてもらいたいと考えます。

当日は、学生ボランティアが交流会運営のサポートや保育にあたりました。学生さんたちの感想を少し紹介します。

<交流会に参加した人>

- ・ 保護者交流会に入れてもらって、話を聞いて日常生活での悩みやこれからのことなど、さまざまなことを知ることができてよかったです。とてもいい経験になりました。
- ・ 自分自身の知らないことがほとんどで、衝撃と驚きばかりでした。保護者の人たちが共感し合っていて、怒りや課題、これからの目標を話し語っていたことがとても印象的でした。
- ・ 学校の授業では、学ぶことができない学びができました。

<保育担当の人>

- ・ 初めはどうしたら良いかわからず、おどおどしてしまっただけ。実際に触れ合うことは大切だと思った。
- ・ 1対1で初めは相手のことがわからず大変だったけど、楽しかった。
- ・ 障害をもつ子と遊ぶのは難しかったけど、将来障害者の施設で働きたいから、もっとボランティアとか行って勉強したい。



3. ボランティア研修会 障害をもつ子どもとともに

2005年6月18日(土) 13:30~16:30

旭区在宅サービスセンター 多目的室

参加者 29名 (社会人5名、大学15名、短大1名、専門学校6名、高校2名)

障害をもつ子どもとどんな方法で、どんなふうに関わればいいのでしょうか?たくさんの不安があるかもしれませんが、でも、私たちは、技術や知識以上にもっと大切なことがあると考えています。子どものサポートは、家族のサポートでもあります。そして、子どもを育てている親の思いを聴くことも大切です。これから出会う「いのち」に寄り添い、自分自身をも見つめなおすために、この研修会が役に立てば幸いです。と思いました。

講演 「このまま、そのまま、あるがまま」

尾田 緑さん (NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ・小学校教員)

三人のお子さんとの出会い(出産)、子育てを通して、尾田さんが感じてきたこと、考えてきたことなどを話していただきました。一番上のお子さんは、ダウン症の障害をもって生まれてきました。「このままでいいやん、この子をこのまま受け入れよう」という夫とともに、成長を育ててこられました。出生前検査(胎児が障害をもっているかの検査)を拒否して二人目を出産。そして、二人目のお子さんがお姉ちゃんの背丈に追いつく頃に授かった三人目のお子さんは、重度の疾病をもっていました。胎児手術を勧められ悩みましたが、手術をしないで出産。

長い闘病生活の後、ようやく自宅で家族5人の暮らしが始まりましたが、医療的ケアの必要な三人目のお子さんが点滴の部分からの感染により心停止にまで至ってしまいました。一命を取り止めましたが、後遺症が残りました。

子育ての中で、希望と絶望、かわいさととまどいの中でゆれ動きながら、尾田さんは、自分自身の思いに向き合い、



子どもをはじめとするさまざまな出会いの中から、「いのち」についてたくさんの方に気づかれました。絶望の時には、子どもと遊ぼうとすらなくなっていた自分、絶望していることにも気づかないほどの絶望感の中の自分に気づいたと言われます。でも、哀しみを受け容れることは、怖いようだが、決して不幸なことではない、受け容れた後にたくさん喜びもやってくると言われました。

今、お子さんに「あなたは、すごい！」と言える、「幸せ」と言えると、話されました。たくさんの方の困難を抱えながら、笑いが絶えない子ども達を中心とした底抜けに明るい家族。笑顔でお話をされる尾田さんに、「いのち」のこと、一人ひとりがかけがえのない存在であること、「幸せ」のこと、さまざまなことに気づかされ、考えさせられた1時間でした。

報告 「子どもとともに暮らす場面から」

小学4年生のお子さんのお母さん 2名

曲 敏彰さん（NPO法人あるる・ヘルプセンターあるる）

自閉症の障害をもつ男の子を育てているお母さん2人から、支援費制度を利用してガイドヘルパーと出かけていくようすや、子育ての中で考えたこと、サポーターさんに希望することなどをお話していただきました。そして、外出支援をしているヘルパーの方のお話を聞きました。

次男は雑踏や閉鎖空間が苦手。おのずと長男の外出にも制約ができるので、外出支援のサービスを利用する事を決めました。次男がヘルパーと外出している間、長男を好きなところに連れて行ってあげたいという思いからでした。初めてのヘルパーとの外出は心配でいっぱいでしたが、1年経った今、行動範囲も広がりました。ヘルパーさんと子どもとの関係も興味深いです。親の見えない子どもようすを聞くのは、楽しみでもあります。制度を利用したことで、家族が改めて「家族」というものを感じる機会になりました。でも、制度には制限があります。兄が同行を希望しても制度は使えません。兄がいれば、弟とサポーターさんとの架け橋になり、より安心して楽しいお出かけができるのにとおもいます。

「子育ては特に母親の役目。障害のある子どもを他人に預けるなんて」と思われるのではと、制度の利用にふみ出せない人もたくさんいると思います。私自身がはじめはそうでした。確かに心配や不安もありますが、ヘルパーさんとよく話し合い、子どものことを理解してもらいながら、行動範囲もコミュニケーションも広がっていきました。親にはできないこともしていただけました。一人でも多くの方が、障害のある子どもを理解し、一緒に歩いていく家庭をサポートしてくれたらと、思っています。

大人の方の支援はしてきましたが、障害をもつ子どもたちに関わる経験も知識もほとんどない中でのスタートでした。仕事なので予習もしましたが、それ以上に、活動を重ねるうちにいろいろな気づきがあり、子どもとの関係性が変わっていったことを感じました。予備知識をもつ事は悪い事ではないですが、障害の種類別によって決め付けをしてしまう危険もあります。本人や家族の人とコミュニケーションをとりながら、ゆっくりじっくり関わっていく中で、相手の個性やペースがわかってくるのです。本人あつての支援者なので、

（ヘルプセンターあるる・曲 敏彰さんの報告から）

参加者アンケートから・・・

<研修会に参加して、気づいたことを自由に>

- ・ 分かっているようでやっぱりテレビ・まんがでみたくらいの事しかわかっていなく、それもどれくらいあってるか分からないなあと思いました。
- ・ 今日は障害を持つ子どもとの生活がどのようなものかを知ることができてとても良かったです。また、ヘルパーの支援の必要性も感じました。支援者としてのあり方も聞くことができて勉強になりました。
- ・ 話を聞いて、障害を持つ子ども達の親の人たちは、大変だろうなというイメージがあった。けど、辛さや大変さがある中にも楽しさや喜びがあるんだなと知ることができた。
- ・ 障害者の支援の仕事をしていますが、相談を受けたときに地域参加の方法として当たり前のようにヘルパーの利用をすすめています。障害児の親にとって、人に預けるといいう点で勇気のいることなんだなと知りました。



<本日の話の中で、心に届いた言葉や場面>

- ・ 尾田さんのお話で「ダウン症を持っていても一人一人顔が親に似ていて嬉しい。」というのを聞いて、だから我が子を愛せるんだと思いました。
- ・ 尾田さんの話の中に出てきた子どもを抱いた時の思いについて、まだ子どもを産んでいない私だけれどなんとなく分ったような気がしました。
- ・ 尾田さんが「障害を持つ子どもを授かってよかったと思えるようになった。」と語っていたことが心に残りました。そう思えるのは、本当にその子の全てを受け入れることができた親だからこそだと思った。
- ・ 一番、今日の話の中で印象に残っている言葉は、尾田さんの「やっぱり生きて産まれてきてくれた」という言葉です。
- ・ 沢山の言葉が心に残りました。曲さんの「本人あつての支援者」。とても素晴らしい考えだと思います。

<今日の話聴いて、障害をもつ子どもたちとかかわっていくうえで、大切にしたいこと>

- ・ 子どものペースで愛情をもって接すること
- ・ コミュニケーションとその子のペースを大切にしたいと思います。
- ・ 曲さんのお話にもありましたが、関わりを持つ前から障害の種別などによってその子たちの性格を決め付けたりしてしまわないことです。
- ・ 一緒に笑ったり、楽しんだり、泣いたりできるような関係が作りたい。

<今日の研修会に参加したことをきっかけにして、これから、あなた自身が変わっていくとしたら、どんな風にならなりたいですか>

- ・ やりがいや楽しさを感じられるように目標をもって取り組む。
- ・ いつか、曲さんみたいな仕事をするかもしれない。その中でいろんな人と出会ってたくさんの人とかかわっていききたい。
- ・ 私は障害者が近くにいます。ですが、その子にはとてもきがるに話をしたりしていますが、研修会に参加して障害者とのコミュニケーションの仕方を学び、とても勉強になりました。

たくさん障害者の方々とかかわっていきたいです。

- ・ 今は例えば障害者についてだったら知識しか分かっていないけれど、実際に子どもに関わり色々なことを学び経験していきたいと思った。
- ・ 真に当事者主体の活動をしていきたいな…と…。

<今日あなたに話をして下さった方へ一言>

- ・ たくさんの実体験を聞くことができ勉強になりました。
- ・ 短い時間でしたが、これから福祉を担っていく一人としてとても勉強になりました。
- ・ これから福祉にかかわることが多くなるのですが、今日の話は私にとってためになる話ばかりでした。聞いてよかったです。
- ・ 今日は話をさせていただいてありがとうございました。障害児はたくさんいるなかで私がかかわってきたのはその中の一部だとわかりました。いろんな障害をもっている方々とかかわっていきたいです

子育て支援

おはなしの会

2005年7月7日(土) 10:30~12:00

旭区在宅サービスセンター 多目的室

まじょ魔女：4名、きしゃぽっぽ運営スタッフ：6名

参加者 27名 : 大人13名(20代:3名、30代:9名、40代:1名)
子ども14名(1歳未満:2名、1~3歳:12名)

昨年、好評だった「おはなしの会」。西区を拠点に活動をされているボランティアグループ「まじょ魔女」の方々をお招きして、小さな子どもも楽しめる読み聞かせの会を開催しました。地域の様々な子育て行事と重なり、参加は少数でしたが、和気あいあいと楽しい会になりました。

参加者アンケートから・・・

<子育てについて> (複数回答あり)

楽しい：9名、 しんどい：9名、 悩みがある：5名、 自信がない：3名

<旭区子育ておたすけマップについて>

- ・ 読みやすく知りたい情報が満載で活用している。 ・ きっと、みんな欲しいと思う。
- ・ とてもわかりやすい。遊びや買い物に行く時や、病院情報を参考にしている。

<おはなし会の感想>

- ・ 親子共々楽しめました。窮屈じゃなく、楽しかった。
- ・ 最後のダンスが最高でした。歌もあって楽しかった。
- ・ 子どもは、「ぴょーん」が気に入ったようで、家でも読んであげたいです。
- ・ 1歳の赤ちゃんも3歳の幼児も、それぞれがとても楽しんでいました。
- ・ 子どもは初めてだったので、ちょっとびっくりしていましたが、私は楽しかったです。
- ・ 子どもは、お話も良く聞き、楽しかったようです、親も楽しませてもらいました。



職種的にいわゆる地域保健職である私は、日々、実に多くの子どもたちと遊び、障害をもった子どもたちともたくさん遊ぶという贅沢な仕事をしている。そんな私も「ともちゃんのおかあちゃん」であり、ひとりの地域のおばちゃんでもある。今回はおばちゃん話をしたいと思う。

おばちゃんちには、台所に7人座れるテーブルがあって、実に多くの人が座ってきた。子どもも大人も誰とはなく集まってきて、話をして帰っていく。なぜかいつも「すっとしたわ。また来るわね」が帰りの言葉。

先日は、娘の保育所からの付き合いの母親達来宅。卒園後、7人中5人がシングルになっている。中学進学にあたっての費用や、母子家庭の手当や医療給付の話で盛り上がった。そのうちの一人は旦那が蒸発後、子どもは不登校、「働かんとたべていかれへんしなあ」と高笑い。周りのみんなは、豪快なその話しぶりをひたすら聴いている。またもう一人はうつ病で入退院を繰り返している。毎日買い弁（弁当）している子どものこと心配している。子どものことやらなにやら、そこにいる友達、みんな一人ひとりしんどいこといっぱい抱えている。台所のテーブルで抱えていること、しんどいこと吐き出している。吐き出しつつも、誰かのことになると何かできることないやろか、といつも考えている。母親と一緒にについて来た子ども達も同じ、時に重たい話あり。おばちゃんいつも「まあ座り、お菓子でも食べよ。」と聴いている。

心の病気で引きこもっている友達もいる。日常的に引きこもりつつも、彼女は私に会いにきてくれ、私も彼女と話していて楽しい。いつもの「おばちゃん」で付き合っている。病気をもちながらも人を気遣い、微笑を投げかけてくれる彼女にいつも感謝。

私は、資格的には助産師・保育士ほかいろいろ、いわゆる保健・保育のプロであるが、このところいつも近所の「おばちゃん」であり、時折プロの顔をのぞかせる、地域の中の自分を大事にしている。

今、私は「ほうぷ」と一緒に育っている。ありのまま素直に「ほうぷ」によりそっている自分がある。「生きている」ことを感じている。私にできることはほんの少し、一人ひとりによりそうこと。人はたくさんのしんどいことを抱えていても、誰かのために考える、よりそえる気持ちがあるってこと、いつも身近に感じている。世の中荒れているとか、怖いとか色々あるけれど、人は捨てたものじゃない。今「生きている」ことを大事にしている限り。

あるNGOの報告集に「日々子どもたちを抱きしめている時、そこに抱きしめられている自分がある・・・心地よい時間がある。」と書いたところ、後輩よりメールが届く。「それがボランティアじゃありませんか？」大好きな「ほうぷ」を抱きしめながら、抱きしめられている自分を感じた。



リレーエッセイ

おもちゃ箱

今村千晶

その他活動報告 & 今後の予定

- 不登校児支援：「不登校ねっと」5/23、6/27 定例会。旭区役所、生江人権協会も参加していただき、今後の組織体制や活動について話し合いました。次回は、8/8。西成区の事例を紹介していただき、話し合います。
- セルフヘルプグループ・ネットワーク支援：『脳血管障害者・あさひの会』は、広報あさひへのあさひの会紹介 & 会員募集記事掲載について話し合いました。『子育てネットワーク・きしゃぼっぼ』は、旭区社協HP の子育て支援情報の企画について話し合いをしています。
- 生涯学習・講師派遣：大学、専門学校の授業のゲストスピーチ、保育士、家庭相談員への研修、ホームヘルパー養成講座の講師派遣などを行っています。
- 福祉教育：旭区社会福祉協議会と共催で、『『福祉』って何だろう～こころと身体で感じる福祉教育ワークショップ～』（2回シリーズ）① 7/27 pm1：00～4：30、② 8/4 am10：30～pm5：00 を開催します。ただ今受講者募集中！

（編集後記）

☆この季節、各小学校では水泳指導が行われているのではないのでしょうか。子ども達が心待ちにしているプールですが、私は上手に泳げません（きっぱり！）。でも、泳げない子どもの恐怖感がよくわかるので、指導には少し自信があります。怖がる子どもに手を添えると、はじめはギューっと、力一杯しがみついてきます。振りほどくことなく、安心するように声かけをしたり、ほめたりしながら進んでいくと、次第に握った手の力が抜けてきます。そこで引いてしまわずに「不安になったらいつでもあるよ」という感覚で、寄り添って進んでいきます。そうやって目標を少しでものばせたら、私もうれしい、やっててよかった。まあ、この歳になると、日焼けは気になりますけど…。(N)

☆とある日曜日、Mさん宅にてお茶をいただきながらの編集会議。あーでもないこーでもないとわくわくどきどきの時間を過ごす。会報を通じてまた素敵な出会いがありますように。(I)